

第 45 回 北洋研究シンポジウム
－北海道周辺海域における最近の気象・海洋環境変化と海洋生物の動向－

共 催：水産海洋学会，北海道大学大学院水産学研究院
後 援：函館国際水産・海洋都市推進機構
日 時：2015年3月6日（金）13:00－17:50， 3月7日（土） 9:30－13:00
会 場：函館市弁天町 20 番 5 号 函館市国際水産・海洋総合研究センター
コンビーナー：桜井泰憲・綿貫 豊（北大院水産）・渡野邊雅道（道函館水試）・谷津明彦（水研セ北水研）

3月6日（金）13:00－17:50

挨拶：和田時夫（水産海洋学会長） 13:00－13:10
趣旨説明：桜井泰憲（北大院水産） 13:10－13:20

【第一部】気象・物理環境と低次生産 座長：渡野邊雅道（道函館水試）

1. 北海道周辺の気象変化 13:20－13:45
川野 浩（函館地方気象台）
2. 北海道周辺の海洋環境変化 13:45－14:10
黒田 寛（水研セ北水研）
3. 北部日本海とオホーツク海における低次生産と水産生物の関係 14:10－14:35
品田晃良（道中央水試）
4. 北海道太平洋海域の低次生産環境 14:35－15:00
葛西広海（水研セ北水研）・田所和明・桑田 晃（水研セ東北水研）

—休 憩—

15:00－15:15

【第二部】水産資源の動向 1 座長：谷津明彦（水研セ北水研）

5. 最近の日本海および太平洋におけるスケトウダラ資源の動向 15:15－15:40
武藤卓志・渡野邊雅道（道函館水試）
6. 近年のホッケ漁獲動向と海洋環境とのかかわり 15:40－16:05
森田晶子・黒田 寛（水研セ北水研）・坂口健司（道中央水試）・鈴木祐太郎（道稚内水試）
7. 北海道における 2001 年以降のスルメイカ漁況の変化とその原因 16:05－16:30
澤村正幸（道函館水試）
8. 噴火湾と陸奥湾におけるカレイ類とマダラの漁獲量の変化とその要因 16:30－16:55
高津哲也・中屋光裕・鈴木孝太（北大院水産）・稲垣祐太（大阪環農水総研）
9. 北海道における最近のサケの資源変動 16:55－17:20
宮腰靖之（道サケマス・内水面水試）

【討 論】 17:20－17:50

懇談会（同じ会場） 18:00－19:30

3月7日（土） 9:30－13:00

【第二部】水産資源の動向 2 座長：綿貫 豊（北大院水産）

10. 指標種からみた魚類群集構造の長期変動特性並びに近年のブリの資源動向 9:30－ 9:55
田 永軍（水研セ日水研）
11. 太平洋のサバ・イワシ類，サンマの資源動向と北海道周辺海域への来遊動向 9:55－10:20
川端 淳（水研セ中央水研）・中神正康（水研セ東北水研）

【第三部】鰭脚類・海鳥類 座長：桜井泰憲（北大院水産）

12. アザラシ類の生態変化に伴う漁業への影響 10:20－10:45
小林万里（東京農大網走）
13. 2000 年代におけるトド来遊動向の変化 10:45－11:10
山村織生・服部 薫・磯野岳臣（水研セ北水研）・浅見大樹（道中央水試）

- | | |
|--|-------------|
| 14. キタオットセイの越冬生態にみる海洋環境への対応
堀本高矩（北大院水産）・三谷曜子（北大フィールド科セ） | 11:10-11:35 |
| 15. 天売島のウトウの餌と繁殖成績の変化から見た日本海：2014年の激変
綿貫 豊（北大院水産） | 11:35-12:00 |
| — 休 憩 — | 12:00-12:15 |
| 【総合討論】 座長：綿貫 豊（北大院水産）・谷津明彦（水研セ北水研） | 12:15-13:00 |

開催趣旨：北海道周辺海域は生産力も高く、多種多様な水産資源が水産業を支えている。しかし、2010年以降には、マイワシ、サバ類、ブリの来遊が増加し、ブリやスルメイカがオホーツク海沿岸で漁獲されるなど、漁場位置の北上化が起きている。また、日本海ではスケトウダラ、ホッケ（根室海峡を含む）の漁獲減が続いている。一方、海面水温は、冬～春に低水温、夏～秋に高水温となっており、従来の海水温の寒冷期、温暖期のレジームシフトに伴う魚種交替では説明できない現象が見られている。加えて、アザラシ類、トド、キタオットセイによる漁業被害の増加、小型浮魚類を餌とする天売島などで繁殖する海鳥類の繁殖成績にも変化が認められている。そこで、本シンポジウムでは、北海道を取り巻く海洋生態系に何が起きているのか、気象・海洋環境変化と海洋生物の動向から概観する。